

新潟県

平成4年

# 公民館月報

12月  
第478号

特集「地区館・分館等

地域教育施設の今日的役割」



赤谷の大けやき

年の瀬を見守る大けやきは、八百年の昔から、神の宿る木として、村人が  
がめられてきた。今なお樹勢さかん。

周囲12メートル、樹高50メートル、県指定天然記念物

(写真と解説川西町公民館提供)

# 第 43 回新潟県公民館大会開催

## ゆとりとふれあいの大会終了

### 地域づくりに 果たす

# 公民館の役割を追究

## 課題を浮き彫りに

十月二十八日(水)二十  
九日(木)の二日間にわた  
り、佐渡地区公民館連  
絡協議会主管による第  
43回新潟県公民館大会  
が、両津市市民会館で  
開催された。

県大会は、例年一日研修とし  
て定着してきたものであるが、  
佐渡の会場ということから今回  
に限り宿泊大会としたもの。こ  
のため、ゆとりある日程で落ち  
着いた研修と、一堂に会しての  
情報交換(夕食会)でふれあ

に満ちた大会となった。また、  
アトラクションは両津市の厚意  
により(出演者は全員市役所職  
員という)プロはだしの唄と踊  
りの堪能するなど随所に佐渡公  
連の誠意と佐渡の特色にあふれ  
た大会であった。

大会テーマは「地域づくりに  
果たす公民館の役割」におき、  
そのポイントを「地区館・分館  
等の充実強化」目指したもので  
あった。実践発表は、新井市の  
大口氏による、町内会を中心と  
した「生涯学習づくり」の実践  
の成果と、推進体制の今後の問  
題点について、高柳町の村田氏  
による、門出集落の創意あふれ  
る公民館活動の実情について、  
金井町の内野氏による、モデル

集落公民館の活動の実際と、他  
の集落公民館への普及活動につ  
いてであった。それぞれの市町  
の着実な実践活動に参加者は深  
い感銘をうけていた。  
反面では、参加者の中には集  
落公民館等公民館類似施設への  
理解や認識が必ずしも十分でな  
く、共通の土俵での話し合いに  
なれなかった部分もあり、今後  
の課題として浮き彫りになって  
いたように思う。

第二日は国学院大学教授堀恒  
一郎氏の講演(内容は四面以降  
に掲載)。閉会式では、会場の  
両津市公民館長木間喜一郎氏か  
ら次期会場の中頸城郡頸城村公  
民館長外ノ池一氏に公民館旗の  
引き継ぎが行なわれ、大会の全  
日程を終了した。



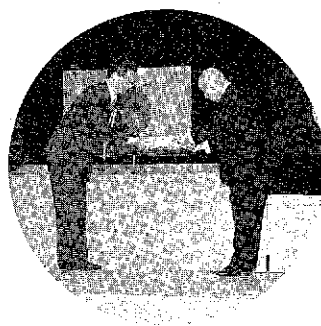
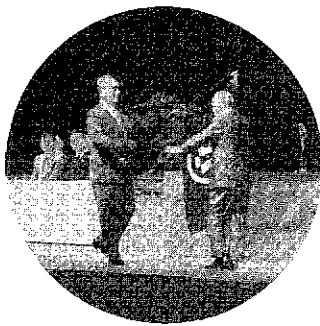
開会式での会長あいさつ



実践発表者  
金井町 内野健二  
高柳町 村田澄雄  
新井市 大口昭  
実践発表者  
司命者  
八木芳一郎



活発な質問、意見発表続出



右は表彰者を代表して受賞の  
川瀬藤作氏(三条市中央公)  
左は公民館旗の引き継ぎ



アトラクションは両津市役所職員が協力

第二回定例評議員会開催

公民館自己診断票調査に協力を

十一月十一日(木)十三時三十分から第二回評議員会が開催された。審議事項は、昨年度の歳入歳出決算ならびに県公民館大会の結果報告等であり、いずれも原案のとおり承認された。「公民館自己診断票」調査について、快諾を得、全市町村公民館の協力により実施することになった。

また、来賓として出席の県生涯学習推進課長清水明氏から次

のようなあいさつがあった。県立生涯学習推進センターがスタートしたが、新設のためフル回転というわけにはいかないが市町村の協力によって活動している。今後モノウハウを蓄積する予定なのでよろしく。

学校週五日制の導入は大切な事である。公民館でも、今後一層、家族・地域の教育力回復に向けて努力してほしい。



祝辞を述べる清水生涯学習推進課長

辛 口

四人の仲間が、公民館を話題にし話し語り合いました。

偶然にも私は、学校長退任を除く三人

うと努力しながらも幾度かあい路に出会い、挫け、自己抑制と諦めを繰返す過程を経て公民館活動の重要性を悟り、地域づくりの期待とその担い手の公民館長としての自負に支え

みんなの協力で

公民館の整備を!!

高橋 ハナ

職後町の公民館長(非常勤)経験者でした。社会教育畑へ初めて入ったこの人たちは、学校教育との格差の大きいのに驚き、なじも

られ勤めあげたと言うのが実情のようでした。学校には非常勤校長はおりません。公民館は県内市町村立本館の九三% (平成二年調査) が非常勤館長です。

このことは、住民と関係者の一致協力の熱意によって実現されるものでしょう。例えば、職員集団で公民館活動を研究的に分析し、親切的な資料を作り整備の必要に気付

とにかく地域の特色を活かし、地域に根ざした活動の展開で住民との連携を深め、相乗りで公民館の整備充実に向かい、環境内で可能な限りの努力をすることが喫緊の要務と考え期待しています。(国際婦人教育振興会)

それは、住民と一番密接な関わりを持つ公民館の存在が、問われる時期を迎えていると同時に、長寿国になった日本の高齢化も、大きな要因になっていると思います。

堀 恒一郎先生は講演の中で、「人間の能力は、大体七十歳位迄発達していくものである。」と現在では考えられている事を、指摘されていました。



生涯学習推進の場と

新潟県支部長)

かせる。

公民館事業を開発するグループを育成する。

地域の問題を常に住民に投げかけ、関心と興味を起させ、自主的解決を促す等々。



お友達に誘われ、始めて公民館を利用させていただいたから、十年余りの月日が過ぎている事を知り、驚きと同時に、その間の様々なことを振り返って見ると、時代の流れ、変化の中で、貴重な時間と、大勢の人との楽しい交流を、公民館の学習を通して体験出来た喜びはひとしおです。

近年、特に公民館の持つ役割の見直しと、重要性が色々話題になって来たように思っています。

それは、住民と一番密接な関わりを持つ公民館の存在が、問われる時期を迎えていると同時に、長寿国になった日本の高齢化も、大きな要因になっていると思います。

堀 恒一郎先生は講演の中で、「人間の能力は、大体七十歳位迄発達していくものである。」と現在では考えられている事を、指摘されていました。

例えば、主婦達の学習の場として、公民館が利用されていた感がありました。今は、五日制に伴う子供達と、対象も広い範囲に関わって来ると同時に、公民館が一人一人にとって身近な存在になって来ます。



昔は「十人十色」と言われていたのが、今日では「一人十色」と言われているようです。このように対象世代の広さと、学習者の要求が多様多様性をおびる時、公民館の運営も多様性が必要になってくるのは必定の事と思えます。現在も公民館を利用させていたでいる一人として、又公運審委員として、「親しみやすく、開かれた公民館」作りのお手伝いをしていきたいと思えます。

新津市中央公民館公運審委員)

感

櫻井園子

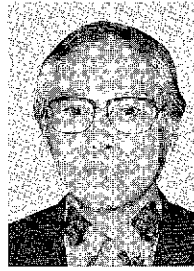
感

# 飲酒運転しない させない みのがさない

## 講師プロフィール

堀恒一郎教授は、社会教育と  
りわけ公民館・図書館等社会教  
育施設についての研究家。現場  
を十分に調査・分析・追究され  
るため、広く公民館の現場に通  
曉されている。

ここに掲載の講演要旨は、編  
集子の一存による取りまとめで  
あり、文責は総て編集部にある。



堀 氏

## 大会講演要旨

# 設の今日的役割

堀 恒一郎

### 一、はじめに

公民館の場合「地区館」といっ  
てもその範囲が一樣でありませ  
んし、「分館」といっても地域に  
よりイメージがかなり違いま  
す。人によっては地区館と分館  
とが一緒のものだと思ったり、  
また、全く自主運営の集落の公  
民館を分館と呼んでいる人もい  
るようです。このように言葉の  
使い方によって、受け取る人の  
イメージがずいぶん違います。  
そこへもってきて、職員が配置  
されている公民館と配置されて  
いない公民館、配置されていて  
も管理だけの職員か、事業を受  
け持つことのできる職員なの  
か、常勤か非常勤か臨時かとい  
うこと、そうした職員の立場に  
よっても、違ってくる。そう  
いうことを承知の上で申し上げ  
ますので、その辺のことはそれ  
なりの立場で受けとめていただ  
きたいと思えます。

### 二、施設の必要性

今日、生涯学習の推進とか社  
会資本の充実ということが言わ  
れ、市民会館、文化会館の建設、  
公民館の建て替えなどが行なわ  
れたりしていますが、その中で、  
「立派な中央公民館ができたの  
だから、地区館は不要」とか「分  
館は要らないだろう」という意

見もかなりみられます。そして、  
実際に地区館や分館を廃止し、  
職員も中央館へ集めて各地区へ  
派遣するというやり方が、ここ  
二十年以上前からかなりの所で  
行なわれてきました。  
しかし、逆に都市農村を問わ  
ず、地区館分館など住民の身近  
にある施設の役割が大きくなっ  
ているとも考えられます。その  
ことについて、いまま少し詳しく  
ふれてみましょう。



①今日、高齢化社会と言われて  
いますが、高齢者の人口がふえ  
ますと、当然身体に不自由な人  
がふえ、遠い中央公民館へ出か  
けるよりも、身近な施設を利用  
して充実したいという人が多く  
なります。このように、長寿社  
会になればなるほど身近な所に

ある学習施設が活動の場になり  
ます。また、高齢者は「歌って  
踊って」と楽しいことばかり  
やっていけばいいのであって学  
習やスポーツの施設は必要ない  
という考え方がありますが、事  
情はかなり違ってきておりま  
す。

②次に、週休二日制のような勞  
働時間の短縮によって余暇を活  
用しようとする人々がかなりふ  
えてきています。現代の若い人  
たちは、自分の人生に二つ以上  
の目的を持つようになつてきて  
います。こういう傾向はこれか  
らはもつとふえるだろと思いま  
す。こういう人たちは、車を持っ  
ているので、行動半径はかなり  
広いのですが、同時に自分の家  
の周りで充足したいという気持  
ちも多いと思えます。例えば、  
マンションに住んでいる人が、  
家の中で楽器を演奏するのが難  
しいので家の近くにその場所を  
求めるといったことです。

③更には、学校週五日制につい  
ても、例えば、スポーツでは、  
これまでの学校主導型から、地  
域で実施するような要請が高ま  
るものと思われれます。子供たち  
にとって、遊びの場をどうやっ  
て確保していくか、新しい遊び  
をどう創りだしていくか、友達  
との関係をどうするかなどを考  
えますと、周辺にいろんな施設

が必要になります。こんなふう  
に、青少年から高齢者に至るま  
で、いろんな意味で施設の必要  
性が生じてまいります。  
④また、人間の価値の基準が変  
わつてきていることもあげられ  
ます。物的なものから心の豊か  
さを上位に置くようになってき  
たことであります。

例えば、テレビは、都市であ  
ろうと農村であろうと同時に画  
面が到着します。都市と農村と  
を区別するものがかんまり埋め  
られてきています。このように、  
情報について、従来都市に集中  
していたのが周辺でも情報を得  
やすくなりますと、心の豊かさ  
を求める人たちが、必ずしも都  
市に執着しなくなるという面も  
生まれてきています。

⑤もう一つ付け加えますと、地  
域が持つ意味を問い直されてい  
るといふことです。  
地域は、経済の高度の成長に  
よつて、一旦は地域意識が崩壊  
しましたが、それを再生しなけ  
ればというところで、コミュニ  
ティづくりが進められてきまし  
た。地域における学習だとか、  
スポーツ、文化・芸術などの活  
動に参加することによって生じ  
る地域への愛着や関心は、学習  
の結果として生まれてくるもの  
と考えられます。

このように、いろいろの面か

# 新潟県公民館 地区館・分館等 地域教育施設

国学院大学教授

特集

ら、地域における教育の必要性を担う場が、公民館の地区館や分館であります。

### 三、公民館の活性化

#### 1 公民館と自治公民館との相互補完

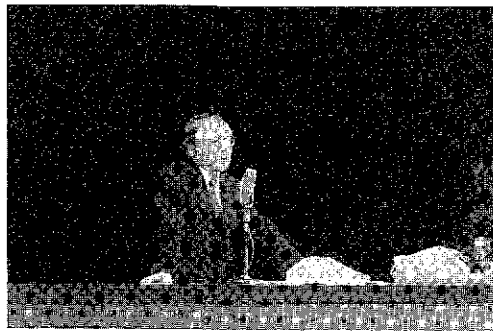
中央公民館、地区館、分館という教育行政の系統と、集落で作っている自治公民館とは機能が違うわけですから、同一に考えるわけにはいきません。集落公民館、自治公民館はどちらかというと、初期の公民館に似ています。その地域の住民の生活全体にかかわっています。それに対して教育委員会系列の公民館は、どちらかというと教育の

施設としての性格を強く持っています。その違いがあることで、両者の組合せが生きてくるという面があります。そういう意味で両者は補完しあう必要があります。この関係は公民館と住民の間にも同様のこと、が言えます。今から四十年前あるいは二十年前の公民館は、どちらかというと公民館が住民に対して、働き掛け(啓発し)ていくことが行なわれ、そのことに意味があった時代でした。今日では、どちらかといいますと、いろいろな面で住民に専門的な知識を持つ人がふえている時代です。

学校も明治の頃は、村の文化の殿堂でした。その地位は第二次大戦のころまで続いてきましたが、戦後は学校が持っている文化水準や設備よりも、住民が持つ水準の方が高くなってきました。そして、それぞれの専門的知識も住民の方が高い(学校の教師よりも遙かに専門家である)ということが多くなってきました。したがって、学校の教師が住民に何かを教えるという関係ではなしに、教師と住民(の専門的知識を持った人たち)が協力して子供の教育に当たっていく必要があるわけです。同じようなことが公民館にも指摘できると思います。公民館が何かを教えるという状況は今日はない

いわけです。住民と一緒に築いていくということが必要な時代になっていきます。

そういう点で、地区館なり自治公民館なりが活性化していくためには、住民といかに協力関係を密にして一つの事業を組み立てていくかということだと思います。特に事業を担当する職員が配置されている施設(公民



館)においてそのことが言えるわけですし、職員の配置のない公民館では、逆に住民の中にどういった専門家がいますか? フォロワーしながら連携・活用していくことが必要だと思えます。

#### 2 公民館は教育の施設

戦後の社会教育では、学ぶのは住民自身であるという立場を貫いています。住民が学びたい

ことに對して、環境を整備していくというのが教育行政の役割です。

例えば、公民館が婦人学級を開設するという場合、婦人学級で知識を教えるのではなく、そこに集まってきた人たちが、自分たちで課題を発見していくとか、自分たちでグループを作りながら、そこで、いろいろと調べたり、討議をしたりしていく環境づくりが教育施設の役割になっていなくてはならない筈です。ところが、実際の公民館では、あらかじめ講師がいて、講義をしていくということが教育だというふうに受け取っています。そうなる、教育の中の半面しか満たしていないわけですね。知識を提供する役割しか満たしていないから、参加している人たちが自分で学ぶということを充足してこなかったことになりま

す。このように公民館を教育の施設とみる場合、公民館が本来持っている機能を十分に発揮することが事業の活性化につながっていくことだろうと思えます。

#### 3 自治公民館の運営

このような期待は、職員の配置されている公民館へのものであって、自治公民館にまで期待するのは酷であります。自治公

民館のようなところでは、周辺の住民が活動する場ですから、周辺の人たちが自治公民館の活動にどういう形で参加しているかをもう一度見なおす必要があると思われま

す。見なおしは、事業を中心に検討する、あるいは住民との人間関係を中心に検討するということになります。もう一つは地域が狭くなるほどいい施設を持つことが大切だと思います。いい施設というのは、立派な建物という外観の事ではなく、一部屋でもいいから、そこへ行けばゆったりと座れる部屋があるとか、話ができる施設があるとか、青年の多い地域でしたら、一部屋だけでも金をかけて防音設備を施し、楽器を奏しても他の迷惑にならない施設という意味です。こういう施設でないとは集まってこない。そんなふうにいると検討して活性化の工夫をして欲しいものです。

#### 四、生涯学習と公民館

##### 1 日本の生涯学習の特色

わが国の生涯教育は、最初は医学の方面で医師の再教育に使われ、次いで企業における技術教育に於いてでした。いわゆる社会教育のような成人教育の世界では、理念としてはいろいろ

年末の交通事故防止運動実施中

と言われてきましたが、踏みだしたのはずっと後になります。そして、具体化したのは行政の観点からです。

もともと学習をするとか教育を受けるということは、大人の場合個人の意志によるわけですから。いつでも、どこでも、誰でも、何でも”と言い、その基本は一人一人の人間がなにを学ぶかということに充足していくことです。それは、欧米でも同じことが言われていますが、日本の場合は「学びたいかどうか」よりはむしろ、できるだけ多くの住民に参加してもらおうという事になり、個人の意志よりは、行政の必要性のほうが重視されるということになります。その点が日本的な生涯教育であるわけです。

もう一つの日本的な特徴は、”いつでも、どこでも、誰でも、何でも”というのがだんだん広がられて、何でも生涯学習ということになってきました。旅行をしても生涯学習、落語を聞くのも生涯学習、カラオケも生涯学習になる。このように生涯学習の自身が無限定になってきています。しかし、生涯学習は無限定な提供ではないということです。

また、公民館以外に、一般行政でも、民間の機関でも学習機

会を提供していますが、それを自分の生涯学習の体系の中に組み入れるかどうかは住民自身であるということになります。つまり、

”生涯学習”という場合は、それを提供する側と、受けて組み立てる側と分けておかなければなりません。本来一人一人の間が、自分で考えていくのが原則です。そこで、住民が選択しやすいように、機会を提供するのが公民館であったり、一般の役所であったり、民間であったりということになります。

### 2 生涯学習の基盤整備

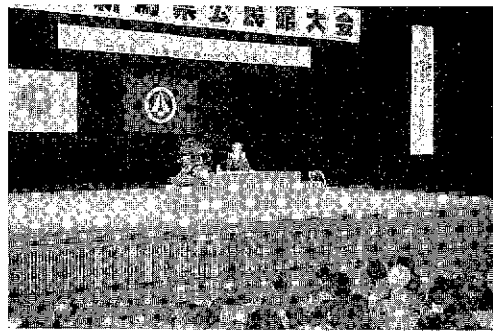
生涯学習を考えていきますと、結局は社会教育の基盤を整備していくことが必要になってきます。

生涯学習を熱心に行っているという市町村で、例えば、図書館はどのくらい充実しているのかと見ると、あまり充実しているように見えません。

図書館蔵書の冊数は三十万冊以上がメドと考えます。新潟市、長岡市では大体それくらい冊数の蔵書があるとされていますが、多くの新潟県の図書館では三万冊とか七万冊の蔵書で「図書館」と銘打っているようですが、三万冊という数字は一年間に出版される本しかないという計算になります。言い換えれば、実際にはあまり買っていないと

いうことになります。

こうした水準の中で、生涯学習推進を強調しようということになりますと、形式的となり、推進協議会を設置するとか、推進大会を開くとか、いわば、目につく事業に重点を置くということになってきます。これから長い時間がかかるかもしれませんが、施設設備の充実について



一步一步進めていかないと生涯学習推進は掛け声倒れになってしまっておそれがあります。

### 3 公民館での検討課題

#### (1) 機能別公民館

従来の公民館は、中央公民館、地区館、分館という形をとることが多いわけです。中には、中央公民館はなく、地区館だけを置いているところもあります。

とにかく、中央があり地区があるという上下の関係の中で公民館を配置していくという考え方と、それぞれの地区の公民館が同等の役割を果たしていくという考え方の二つがありますが、このような発想とは違った、機能の観点から分けることを考えてみたらいかでしょうか。

住民の学習レベルがかなり上がってきています。逆にいろんな日常生活の面で知識を得たという要求を充足していく必要があります。例えば、若い母親が子育てのための知識を得たい、といったことです。そうなりますと、日常生活を充足する館(日常活動館)と高い機能を充足する館(高機能活動館)のように機能別に分けて両者が協力しあうという形が大切になるのではないのでしょうか。

従来の地区館は、特定の地域を担当するという事になっていきますが、管内の地域住民を対象にしていくだけではなしに、市町村内全体に開放し、機能に応じた提供をしていくという必要があるように思います。

#### (2) 自治公民館への提言

住民の生活がかなり変わってきておりますので、自治公民館的な活動も、その周辺の地域を眺みながら活動していく面と、かなり広い範囲を見ながら活動

していく面も取り入れていく必要があります。例えば、自治公民館の交流を考えた場合、市町村内の自治公民館の交流だけでなく、もっと広い、それを超えた形での交流をしていくことが必要になります。

例えば、ユースホステルに対して、エルダーホステルがあります。エルダーが旅行をしなから学習するという事ですが、そうしたことが自治公民館の中で企画されていくと、自治公民館の役割も変わっていく面があります。

こんなふうに、いろんな面で生涯学習という観点から公民館の在り方をもう一度問い直す必要があると思います。

### 五、まとめ

生涯学習を進めようとするほど、社会教育施設の役割の重要性がでてきます。その充足を欠いては、生涯学習はいわばうたい文句に終わるおそれがあります。生涯学習の機会の充足をはかるのでしたら、社会教育の充足をまず図っていくことが、それぞれの市町村でなされる必要があらうと思えます。それは、一朝一夕で実現するとは思われません。長い時間をかけて、関係者の努力を重ねていくことが大切です。

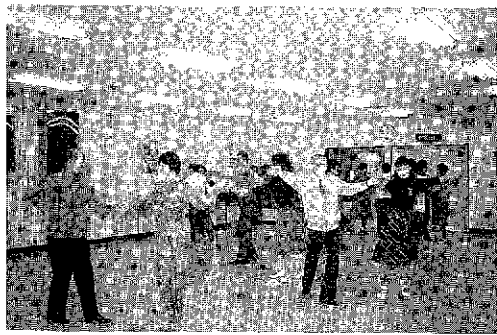
# サークル交流

### ダンスは楽しい体力づくり

#### 三島町「フラミンゴ」

「フラミンゴ」三島町スポーツダンスクラブの愛称です。美しく楽しく、スマートに踊りたい、そんな願望がこめられています。

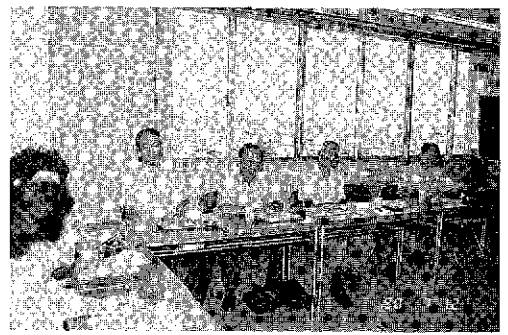
「フラミンゴ」は発足して五年目になります。最初、町の公民館の社交ダンス教室が開催されて、教室終了後に参加者が集まりグループを結成しました。毎週水曜日、土曜日の夜は、講師を招き二時間のレッスンを



ユニークなトークグループ  
坂井輪「茶論・アイアイ」  
「茶論・アイアイ」とは……何ともユニークでザックペラシ、マナーを守って話法を磨きながら男女共生社会を目指すトーク・グループなのである。  
『茶論・アイアイ』は平成二年に新潟市坂井輪地区公民館で学習をしている有志を中心として発足。その名の通りサロンの感覚でアイ(眼)、視点、愛、会、和気藹々(etc)をこめて話し合い活動が続けている。

受け、楽しい汗を流しています。また、町の良さをもっと知ってもらおうと、他の市町村の方々と交流のために毎月一回、町の体育館でパーティーを開催して、交流を深めています。  
さらに、今年の六月には新潟県スポーツダンス競技大会が当町で開催されました。この大会を見学した皆さんが、このよう

な大会に出場してみたい、そんな夢を見ながら、レッスンで知らず知らずのうちに体力づくりの汗を流しています。  
(代表 西山 一夫)



メンバーは男女同数が原則で現在十九人。大学名誉教授、ジャーナリスト、元公務員、調停委員、女性問題研究家、運営委員、各種リーダーと多士済々。

第二木曜日に集まり、コーディネートを決め研究発表をして話し合い、自らの向上に資する。従って月頃の勉強は欠かせない。

発足二年めの昨年は新潟日報論説委員OBを招き、今年には内容を公開しようと公民館当局の支援を得、メンバーも講師を務め十一回にわたって木曜市民時事大学を開催、大きな地域貢献を果たした。来年も続行の予定で構想を練っている。  
(代表・石原道夫記)

### 十日町市公民館主宰

#### 鈴木規 宰氏(28歳)

「今の若者は、自分も含めて、本当に考えなければならぬ」とをきき、楽しい方向にだけ走りがちなのが気になる。社会のことや、人生設計などを考える機会をぜひ持ちたい。」とは、鈴木本主事の青年活動への思いであり、姿勢である。



地区館勤務を二年、本館勤務になって二年目をむかえている鈴木本主事の担当は青年学

## 素顔拝見

#### 紫雲寺町中央公民館・主事補 見田賢一氏(21歳)

写真では、ごく普通の青年に見える彼が、実は、ライフセービング全日本大会で第二位の実績を持っていたライフセーパー(水難救助員)なのである。  
平成三年四月に配属されて以来、「公民館職員に求められるものは体力」とばかりに、忙しい仕事の合間を縫って、得意のサーフィンはもとよりゲートボールからスキーまでありとあらゆるスポーツに積極的に挑戦し、日夜体力づくりに励んでいる(女性との出会いが主という



声もあるが……)仕事でも社会体育分野を主に持ち前の若さとガッツで体当たりの彼は、明朝活発な性格も手伝って、特に小・中学生からは「ミタケン」の愛称で親しまれ、アイドルの存在となっている。  
公民館職員としての素質十分な彼には、更にキャリアを積むことで、なお一層の飛躍が期待される。

級。同年齢の人達と一緒にあって、事業の企画運営にあたっては、常に笑いが絶えない。学級生達の良き兄貴として、私生活の相談にも親身になってのってくれる。  
趣味はジョギングとカラオケ、という彼も、二人の子どもの優しい父親であり、七人家族の大黒柱である。  
「仕事も大切に。家庭も大切に。」という彼の言葉から、やさしさのあふれた人間性を見いだすことができる。  
(十日町市中条地区館) 水落久夫記

紫雲寺町中央公民館 社教主事 大久保浩二記



資料紹介

まちづくりふるさと文集

「岩崎だより」総集編発行

山北町岩崎集落公民館

ふるさと創生岩崎はまなす委員会

山北町の青木繁氏(ふるさと創生はまなす編集委員長)から「岩崎だより総集編」が贈

られた。これは、岩崎集落が町助成による「ふるさと創生事業」の一環として行なったもので、岩崎集落公民館が昭和三十七年五月に第一号を発行して以来取り組

一回をめぐりに発行されたもので、B四判、がり版刷り四頁の手作り文集の大冊である。発行当初のころの岩崎集落では、多くの人たちが「出稼ぎ」で遠隔地に赴いていたもの



資料紹介

電話・テレビなどの情報伝達の手段の乏しい時代であったことから、公民館では、出稼ぎ者といふと岩崎や家族との間を結ぶ重要な役割を担う情報紙としての役割を果たしてきた。あれから三十年経過した今日では、当時のむらの様子や家族のこ

と、むらを離れて遠くに定住している人たちの姿まで浮かんでくる。岩崎の歴史や文化を語りつぐ役割を担っている。この貴重な財産のうえに、更に書き継ぎ、より一層の連帯の絆になることを祈る。

第八回全国天領ゼミナール

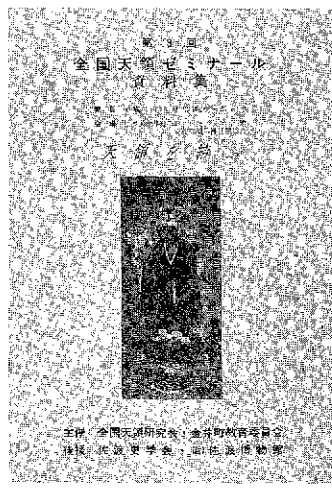
資料集「天領を結ぶ」

第七回ゼミナール記録集も

佐渡金井町教育委員会から、第八回全国天領ゼミナール資料集「天領を結ぶ」ならびに第七回全国天領ゼミナール記録集が贈られてきた。B五判で四十三頁の資料集と九十六頁の記録集である。

天領とはいまでもなく、江戸時代の幕府直轄領のことで、全国の概要の地が天領になって

いた。本県の出雲崎町と金井町もも天領。両教育委員会が呼び掛けて、全国の天領文化に関心をもつ研究家が一同に会し、情報提供や歴史的考察などの研究交換するユニークな活動をしている。第一回から四回までは出雲崎町の教育委員会で、第五回から今回まで金井町教育委員会が主管して実施している。



資料集「天領を結ぶ」は、去る平成四年八月二十二日(十四日)にわたり金井町町民会館で行なわれた第八回天領ゼミナールの内容を、また、記録集は平成三年八月に同町町民会館で実施した第七回

あとがき

◆年の瀬を迎え、加えて降雪期とあって交通事故の増加が気になります。

自動車死亡事故が全国ワースト2とか。あまり名誉になることではありません。交通事故防止を重大な生活課題と受けとめ、公民館の学習として取り組む必要がありそう。

◆「公民館自己診断票」の調査用紙が続々と事務局へ回送中です。唐突な依頼にもかかわらず積極的な協力に感謝しています。おそくとも三月号には県全体の集計をお知らせできると思っています。 上村記

発行所 新潟県公民館連合会  
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟(025)224-6073】  
発行人 会長 細川正博  
編集人 事務局長 上村 拾二郎  
【定価1部130円 共々・年報1,560円】